

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和2年3月16日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670105156
法人名	有限会社 アクティブヒューマンライフ
事業所名	グループホーム 甲突悠暮里
所在地	鹿児島県鹿児島市郡山町68番地 (電話) 099-245-6030
自己評価作成日	令和2年1月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和2年2月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム甲突悠暮里は郡山の市街地にあり、田畑や山々の景色が望め、ホームの裏を眺める甲突川には時折カワセミやヤマセミが時折姿を見せてくれる環境にある。利用者は地域の住み慣れた場所で安心して暮らしている。職員は「その人らしさ」「想い」を大切にし、利用者それぞれの能力を生活に活かし、ゆっくりと個人にあった過ごし方ができるように職員全員で取り組んでいる。医療面でも定期的訪問診療、訪問看護ステーションと職員との連携を図り、安心して生活ができるよう支援している。

- ・当事業所は2階にあり、1階は小規模多機能ホームとデイサービスセンターで同系列の施設のため、災害時や緊急時は協力体制が構築されている。1階施設の利用者が当事業所の知人を訪問する等、交流がある。
- ・各居室は洗面台やトイレ設置のため排泄時のプライバシーの確保ができ、利用者は安心して排泄ができる環境にある。
- ・月1回の認知症カフェ開催で認知症についての相談・助言ができることで事業所として地域貢献ができています。地域運動会や文化祭出品するなど積極的に地域住民と交流している。
- ・管理者や職員は利用者の個性を尊重し、常に寄り添い、利用者が安心して気持ちよく過ごせるよう関わっている。
- ・職員の資格取得に向けての支援体制がある。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	基本理念を事業所に掲げ、申し送りやミーティング時に確認しながら業務にあたっている。	基本理念と理念に基づく目標を掲げ、玄関・事務所に掲示し、申し送りやミーティング時に確認し支援している。ケアカンファレンスで振り返りを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で開催される行事（郡山文化祭）などに出品している。またボランティアの方に来ていただき交流を深めている。	町内会に加入し総会出席や回覧板で地域情報を得ている。文化祭作品の出品・見物、清掃活動、地域敬老会等に参加している。小学生からの肩叩きや花苗の差し入れ、中学生の施設掃除、高校生主催のゲームを楽しむ等、散歩での挨拶や認知症カフェで地域住民の相談のアドバイスをして日常的に地域と交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	家族や地域の方々の相談等や運営推進会議で勉強会等を行った		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2か月に1回、民生委員、地区長、地域包括センター職員、利用者家族の参加をいただき運営推進会議を開催している。その中でご利用者の状況やサービスの実績を報告している。</p>	<p>定期的に会議を開催し、利用者や活動状況を報告している。参加者のそれぞれの地域の情報提供や提案があり、事故防止のためのセンサー活用の提案がありミーティングで検討し活用する等、サービス向上に活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議で行事等の報告や困難な事例なども相談・報告を行っている。</p>	<p>市担当者とは支所に出向き、書類持参や事業所の現状を積極的に伝えながら協力関係を築いている。介護相談員や福祉課の職員とも情報共有する等、協力関係にある。市主催の研修案内があるが現状は参加できてない。</p>	<p>市主催の研修会への参加が望まれる。</p>
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>管理者、職員は身体拘束について正しく理解している。施設内研修等で身体拘束がもたらす弊害と緊急時の身体拘束について話し合い意識して業務にあたっている。</p>	<p>年1回マニュアルに沿っての法人での合同研修会や3ヶ月に1回身体拘束廃止委員会を中心に資料を用いてのスピーチロックや夜間帯の行動について等、勉強会を実施している。センサー使用を家族に説明し同意を得ており、記録している。日中の玄関施錠はせず外出希望時は、利用者と距離を置き一緒の行動で見守り支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についてミーティングの中で話し合い虐待が起らないように注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	施設内研修等で学ぶ機会があり、欠席者も研修報告書にて研修の内容を把握している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用者・家族に十分な説明を行い不安や疑問点について理解納得が得られるまで説明を行っている。また、契約後についても不安や疑問点が出てき場合にもその都度対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情相談受付・解決責任者・第三者委員会を設けて、苦情対応を行っている意見箱を設置し運用している。	利用者には日常の暮らしの中で夕方に居室で意見を聞くこともある。家族には面会時、積極的に現状報告し意見や要望を聞いている。毎月「悠暮里だより」を送付し、ホームからも電話して意見や要望を表せる機会を設けている。出された要望から口腔ケアについてや家族の協力で散歩・外出する機会を多く作っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>施設内の各委員会やミーティングでの意見や提案を取り入れ運営に反映している。</p>	<p>ミーティングや委員会等で意見や提案する機会を設けている。3ヶ月に1回の面談、必要時はその都度時間を設けている。備品収納を改善し、職員の動線を短縮できた。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>個別面談を行いながら職員の状況を把握し各職員が向上心をもって働けるよう努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>個別面談や自己評価目標管理シートなどを活用し各職員の力量を把握するよう努めている。施設内・施設外の研修も案内し必要に応じて参加をしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協会などの加盟はしておらず同業者との交流は出来ていない。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安なく安心して暮らして頂けるよう何気ない観察を行い常にご本人の話を聞きご家族などの話も参考にしながら信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っていることや不安なこと、要望などご家族の目線に立って対応している。いつでも相談できる環境づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者及び家族の状況をお聞きし必要としている援助を実施している。またご本人の心身の状態に応じてご本人の及びご家族の同意を得ながら援助の変更を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に利用者の目線で考え同じ環境で生活しているという気持ちを持ちながら支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などに近況報告など情報を共有し、面会や外出などの機会も提案している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親せき、ご近所の方など馴染みの方も気軽に面会に来られるような雰囲気を作っている	家族や友人・デイサービス・小規模多機能利用の知人などの面会も多く、居室やフロアでお茶を出してゆっくり寛いでもらっている。年賀や葉書き・電話の取次ぎ支援をしている。家族の協力を得て墓参り・法事・結婚式への参加・買い物・外食等、馴染みの人や場所との関係が途切れない支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士のかかわりをだいにし、状況に応じて職員が間に入ったり付添ながら支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者・家族とも退所後も関係を持ち続けている。必要に応じて相談等も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者やご家族と面談をしながらご利用者一人一人の思いや希望など把握に努めている。	ティータイムや夕食後・入浴時に昔話をされる。その中から現状の思いや意向を把握している。困難な場合は入所時の元気だった頃の生活をアセスメントし、声かけすることで表情から把握したり、家族からの情報で、本人の思いに添う支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の話やご家族からの情報でできるだけ詳しく生活歴・暮らし方や・利用されていたサービス等の生活環境を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の心身状態を把握しその場に応じた声掛け・対応を行いながら残存機能を活かしてもらえるように支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りや、ミーティングで提案された事項について利用者や家族と意見交換を行い要望に沿った介護計画を作成している。	本人の思いや意向、家族の面会時の意見、職員からの情報、主治医の意見をもとに担当者会議を開催し、現状に即した介護計画を作成している。3ヶ月毎のモニタリング、個別に応じて6ヶ月～1年に1回見直し、必要時その都度見直している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や援助の実績・結果・気づきなどその都度記録し申し送りを徹底し職員間で情報を共有し必要に応じて介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者やご家族の要望に対し可能な限り柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の意向や必要性に応じてボランティアの方々などの協力をもらい支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係は良好に保たれている。利用者や家族の希望など必要時には適切な医療が受けられるよう	本人や家族の希望するかかりつけ医を大切にし月1回の往診と協力医療機関からは2週間に1回の訪問診療がある。必要に応じて歯科往診もある。眼科や皮膚科などの専門外来受診は家族または職員が同伴する。結果は面会時または電話で報告している。24時間体制で緊急時に対応し、指示で救急搬送の場合も有り適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>異常などあった場合は看護職員や訪問看護の看護師へ報告と情報を共有しながら適切に処置や医療機関の受診等出来るように支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には速やかに情報提供を行い早期に退院できるよう病院関係者との情報交換を行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化下場合の対応及び看取りに関する指針について事前にご本人・ご家族に説明し支援している。</p>	<p>重度化した場合の対応及び看取りの指針を作成しマニュアル化している。契約時や状態変化に伴い主治医による説明を家族と一緒に聞き、同意書を貰っている。毎日の訪問看護で職員は家族の協力を得ながら看取りケアを実践している。家族の宿泊環境を整え看取り支援に取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変や事故に対してマニュアルを整備するとともに看護スタッフによる定期的な実践等により緊急時対応できる体制をとっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署職員の立会のもと定期的に防災訓練を行い近隣住人の方にも参加を呼び掛けている。</p>	<p>年2回内1回は消防署立会いのもと定期的に昼夜間想定で避難誘導訓練や消火器での消火訓練を行っている。避難誘導後の見守りを地域住民の協力を得ている。原発事故時や地震災害時のマニュアルも作成している。災害時は支所の有線放送がある。災害時の備蓄として水・米・羊羹等、2週間分と懐中電灯やカセットコンロ等がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者それぞれの人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや援助を行っている。	人権擁護や接遇についての勉強会を定期的に、必要時に行っている。入室時はノックし、排泄介助時はトイレのドア開閉に留意し声かけしている。入浴時は羞恥心に配慮し、同性介助や職員交代で誇りやプライバシーを損ねない対応をしている。更衣時の衣類を選択できる環境を提供している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	結論を急がせるような声かけを避け、常に傾聴の姿勢で支援している。事前に理解できるように説明をし自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各利用者に合わせ、その日の体調や気分にあった過ごし方が出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	声かけ等で季節や利用者の好みに合わせた衣類の選択など行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の機能に応じて食後の下膳等していただいている。献立については外注食で対応は難しい。月に2回程度朝食をパン食に変更したり定期的に希望の献立を出せるよう工夫をしている。	主食のみ事業所で用意しその他外注食であるが利用者の健康状態や嚥下機能に応じて、汁物は薄めたり、食形態もミキサーや刻み食、代替食で提供し美味しく食べれるよう工夫している。誕生日は外注食を中止し、好きな寿司や外食に出かけ、行事食は事業所で料理を追加する等、工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に応じて刻み食やとろみ食・ミキサー食等対応している。なお、医師の意見なども参考にしながら高カロリー食等も使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛け等で口腔ケアを実践している。介助が必要な利用者は職員で口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、トイレの声掛けや誘導を行っている。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、プライドを傷つけない対応を心がけ、耳元で静かに声かけしトイレ誘導している。夜間ポータブルトイレ使用の利用者もいる。布パンツ使用での排泄が増加傾向で自立に向けた支援に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的な水分補給を行い適度な運動の実施に努めている。水分摂取量等はチェック表に記載主治医・看護師の指示のもと服薬等の指示を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	ある程度時間や曜日を決めて入浴を計画しているが、体調や利用者の希望に応じて対応している。	基本的に週3回で午前中の中の入浴支援であるが希望に応じて対応している。訪問看護師による簡易入浴支援もある。入浴剤使用で楽しめるように、同性介助で支援している。拒否時は個々の特性を活かし脱衣場に音楽や歌いながらの声かけの工夫や個々に応じて足浴や全身清拭等、支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間と昼寝の時間をもうけているが、それぞれの生活習慣やその時々状況に合わせて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をすぐに見られるように工夫し副作用や服薬するうえでの注意事項等を理解し、内服の支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別に楽しみ等を感じられるよう支援を心掛けている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	体調を考慮しながら散歩やドライブ、家族との外出等の支援をしている。	散歩や買い物、住み慣れた地域周辺へのドライブ等に出かけている。年間計画を作成し弁当持参で近隣公園での桜の花見、都市農業センターでのコスモスやひまわりの見物等に出掛けている。地域行事の運動会や敬老会・文化祭等へ出かけたり、家族の協力で墓参りや買い物・外食等、出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族より一定額の金銭を預かり本人が希望する品物を購入し要望に応じている。預り金は月末に締め、家族に支出状況を毎月報告し収支を確認している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人が家族に電話をかけたいと希望されるときは電話を繋いだりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のビュッゲは明るく広い構造になっている。木々や田んぼ、が見え、テーブルには草花を飾るなど季節感を感じられるよう工夫している。	共用空間は加湿器や温湿度計を設置し温度・湿度を管理している。採光もよく清潔感がある。窓から外の景色が見渡せる。畳間やひな壇があり、舞台としても活用している。テーブルには季節の草花が飾られ、座席の工夫も見える。壁には利用者の作品を掲示し、居心地よく過ごせる環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士が自分の部屋に招き一緒に塗り絵の評価をしたり、一人で過ごしたい時は自分の部屋で過ごされている。思い思い過ごせる工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にトイレ・洗面台が設置されプライバシーも配慮されている。使い慣れた家具等の持ち込みや配置も利用者・ご家族と相談しながら行っている。	居室はエアコン・ベット・洗面台・トイレ・加湿器・寝具類を設置している。整理ダンスやケース等を持ち込んでいる。家族写真も飾りテーブルや椅子・テレビ・位牌にはご飯とお茶を毎朝備え、神棚には、正月に櫛を飾り礼拝するなど家族と相談しながら、自分らしく、居心地よく過ごせる居室作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設全体がほぼバリアフリーとなっている。安全に出来るだけ自立した生活が出来るよう環境整備に努めている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない